

* 会衆と共に賛美をささげるために *

企画・編曲・ガイド著: 高浪晋一

= INDEX =

- ・ はじめに～ゆとりを持って伴奏に臨むために～
- ・ 楽器について
- ・ 編曲について～その意図とメリット～
- ・ 運指(指使い)について
 - ・ 運指の記し方
 - ・ 運指と弾き方 : 指替え / 指すべらし / 指くぐり / 指越え ※参考動画あり
- ・ 歌詞のフレーズを意識する～会衆の賛美を支えるために～ ※参考動画あり
- ・ あなただけのオリジナルの楽譜に!
- ・ おわりに
 - *「アーメン」について

■ はじめに～ゆとりを持って伴奏に臨むために～

会衆と共に賛美をささげるとき、奏楽者には「伴奏の譜面とおりの音を上手く弾く」ということだけが求められているわけではありません。

常に会衆の息遣いを心に留め、歌詞のフレーズを意識した弾き方に努め、会衆と一体となり、賛美全体をリードしてゆく——そのような大切な役割が、奏楽者にはあるのです。

そのために重要なことは「ゆとりを持って伴奏に臨む」ということ。楽譜を弾くことにだけ一生懸命になってしまうようだと、その役割をなかなかうまく果たすことはできません。

『讃美歌 21』本体の伴奏譜は、ほぼ四声の形で構成され、よほど技量のある人であっても、余裕を持って弾くことは容易ではないかもしれず、実際にそのような悩みも多く耳にします。

そんな声に答えるために 2009 年に『讃美歌 21 やさしい伴奏集』が刊行され、その編曲を分担で担当させていただきましたが、今となってみると、この時の私の編曲内容も、“ゆとりを持って弾く”というには十分ではないかもしれないと感じています。またこの曲集では、紙面の都合上、限られた曲数のみの収録でもありました。

そこで今回のシリーズでは、どのような方であっても、出来るだけゆとりを持って弾いていただけるような編曲内容になるように改めて心がけ、さらに導入として運指番号を付けることにしました（運指番号についての詳細は後述ご参照）。また権利等の特別な問題で取り組むことの難しい作品以外の曲全てにトライしてゆく予定です。

「奏楽の担当ということで、緊張して礼拝に集中できないことがある…」という声も聞きます。このシリーズが、その悩みの解決の一助に少しでもなることが出来れば幸いです。

■ 楽器について

オルガン（パイプ・電子・リード）、ピアノ、キーボード、どの鍵盤楽器で弾いてもよいように想定しています。

■ 編曲について～その意図とメリット～

このシリーズでは、「ゆとり（余裕）を持って弾けるように」「譜読みの負担が比較的楽になるように」との意図から、『讚美歌 21』本体の四声体の伴奏に対し、三声・二声を中心とした内容としています。また効果的と思われる部分はユニゾンにしているところもあります。

声部は減らしてありますが、和音の構成音を過不足なく配置し、四声に劣ることなく充実した響きで会衆賛美を支えることができるように、なるべく『讚美歌 21』本体伴奏譜の持つ和声進行やイメージを損なわないようにと心がけています。

ゆとりが生まれることにプラスし、声部を減らすことで「主旋律（メロディー）が聞き取りやすくなる」というメリットも生まれ、会衆が音を取りやすくなることも期待できるのではないのでしょうか。

一部、またカデンツ的にしたほうが自然なところは、部分的に四声に音を増やしていますので、より重厚なハーモニーを味わっていただける箇所もあると思います。

また曲の中で同じ形式が繰り返される場合、最初と 2 回目では伴奏の形を変えているものもあります。その場合は、自分が弾きやすい伴奏のほうを 2 回繰り返しても OK、とにかく余裕を持って弾ける状況を、自身で工夫して作るようにしてみましよう。

■ 運指（指使い）について

前の音から次の音へつなげて弾こうと思っても、指使いによっては音と音が切れてしまうことがあります。また不自然な指使いを用いていると、ミスタッチにつながってしまうことに。そうならないために、あらかじめ運指（指使い）を考えておくことは、とても重要になります。

このシリーズでは、すべての曲に運指の例を記しています。運指の工夫次第で、スムーズに弾けたり、フレーズの流れを損なわず弾ける可能性が高まりますから、まずは記載の運指で試していただければ幸いです。

また今回は、弾きやすさだけではなく、歌詞のフレーズを意識できるような指使いをできるだけ選んでみました。フレーズにあわせた弾き方の一助となればと願います。

手の大きさ、指の長さなどは人によって異なるため、使いやすい運指もまたそれぞれでしょう。慣れてきたら自分に適した運指を用い、弾き方の工夫を探し出していただければと思います。

運指やその弾き方を工夫することに慣れるまでは、努力や苦勞が伴うかもしれませんが、「いい指使い・弾き方」を見つけ、うまくいった時の喜びは代えがたいものがあります。ぜひ取り組んでいただき、「指使いの大切さ」を実感してみてください。

== 運指の記し方 ==

- ◆同じ音(和音)を同じ運指で弾く場合は基本的には記載を省略していますが、歌詞のフレーズを意識するために、あらためて記しているものもあります。
- ◆音を延ばしたところに別の音を重ねる場合、延ばした音の運指は「-」で記してあります。
- ◆指替えの箇所では、1つの音(和音)の上に、2つの指数字を「-」でつないでいます。

== 運指と弾き方 ==

指運びには、いくつかの基本的なテクニックがあります。以下の4つを動画とあわせて示しますので、参考に見てください。

指替え

1つの音を弾く間、また同じ音が打ち直し(弾き直し)で続くとき、同じ鍵盤を別の指に弾き替えて次の音の運指に備えます。

【動画】*楽譜付き

- ・右手(打直し): 21-6より(動画準備中)
- ・右手(打ち直し和音): 21-1より(動画準備中)
- ・右手(同拍和音シングル): 21-1より(動画準備中)
- ・右手(同拍和音ダブル): 21-8より <https://youtu.be/oSLKlmuUtJ8>
- ・左手(打直し): 21-16より(動画準備中)
- ・左手(同拍シングル): 21-1より <https://youtu.be/TA6x5MfQgnk>
- ・左手(内声あり上声のみ): 21-6より(動画準備中)

指すべらし

隣り合った音を同じ指で移動するとき、鍵盤からその指を離さないようにする弾き方です。

【動画】*楽譜付き

- ・右手(内声): 21-10 より (動画準備中)、21-12 より (動画準備中)
- ・右手(和音): 21-15 より (動画準備中)
- ・左手(内声、和音・黒鍵): 21-10 より (動画準備中)
- ・左手(内声・白鍵): 21-19 より (動画準備中)

指くぐり

指(主に親指)が別の指の下をくぐり、次の音に移動します。

【動画】*楽譜付き

- ・右手(単音): 21-7 より https://youtu.be/O_I3N7kdNwI
- ・右手(和音): 21-6 より (動画準備中)
- ・左手(単音): 21-6 より <https://youtu.be/nFvX64k7THo>
- ・左手(和音): 21-3 より (動画準備中)

指越え

指の上を別の指がまたいで、次の音に移動します。

【動画】*楽譜付き

- ・右手(和音): 21-2 より (動画準備中)、21-11 より (動画準備中)
21-6 より (動画準備中)
- ・左手(単音): 21-2 より (動画準備中)
- ・左手(和音): 21-3 より (動画準備中)、21-6 より (動画準備中)

■ 歌詞のフレーズを意識する～会衆の賛美を支えるために～

私たちが賛美歌を歌って賛美をささげるとき、特に大事にしなければならないと思うのは、「歌詞を理解し、自身から発する“賛美のことば”として歌う」という姿勢です。奏楽者は、そのために歌詞(ことば)の持つフレーズを意識しながら伴奏を弾き、リードしていく必要があります。

「歌詞のフレーズを意識する」ということは、フレーズ(文章やことば)の切れ目でない部分では音を切らずに、歌う(語る)ように弾くということ。伴奏を弾く前に、まずは一度歌詞をよく読んで、それらを確認してみるとよいでしょう。また同じメロディーでも、節ごとに歌詞のフレーズの切れ目が異なるケースがたくさんありますから、そのことにも注意してみましょう。

「歌詞のフレーズの切れ目って…?」という方のために、簡単に動画で例を示してみますので、参考にしてみてください。

【動画】(楽譜付き)

<21-3 メロディーのみ(オルガン演奏)>

1 節より <https://youtu.be/YGx0nAVJ4Nw>

3 節より <https://youtu.be/wKp3szZKN0o>

5 節より <https://youtu.be/X89deLFLvi4>

このために、指使いも歌詞のフレーズを意識できるようなものになるべく選びました。楽譜(音符)を見ただけでは「あれ?」と思うような運指番号も、「歌詞と見合わせてみると納得!」という方もおられることと思います。

また、特にフレーズやことばの区切りを大事にしたい箇所に、記号(|)を追加してるケースもあります(父・子・聖霊など)。この記号は「ブレス(息継ぎ)」のために間を取るというよりも、「フレーズやことばの変わり目」と言ったところ。会衆のブレス(息継ぎ)に配慮しながらも、間をあげすぎず、次のフレーズに進めましょう。

■ あなただけのオリジナルの楽譜に!

このシリーズの楽譜には、歌詞テキストを添えていません。

それは、歌詞掲載の権利手続きのために、楽譜そのものが掲載不可となることを避けるというのが理由の一つではありますが、それ以上に、伴奏するみなさんご自身に『讚美歌 21』本体より歌詞を書き写していただくことで、歌詞をしっかりと噛みしめて、ご自身に染み込ませていただきたいという、大きな願いからでもあります。

譜表の間に歌詞を書き込むスペースが設けられていますので、ぜひ各々で歌詞を書き込み、伴奏に臨んでいただくことをおすすめします。スペースが足りない場合は、楽譜を必要な枚数をプリントするなどして、使いやすいようアレンジしてみてください。

フレーズを意識して弾くために、歌詞のラインのそれぞれの切れ目に印を入れるのも有効な手段です。また指使いを自分の弾きやすい番号に書き直してみるのもよいでしょう! あなただけのオリジナルの伴奏譜にどうぞ仕上げていってください(例を画像で示しますので、参考してみてください)。

= (画像準備中) =

■ おわりに

伴奏譜の内容が難しく、それを弾ける伴奏者がいないため、その賛美歌を用いることができないということがもしあるとすれば、それはとても残念に思います。その解決のための一歩として、このシリーズが、少しでもみなさまのお役に立つことができればと願っています。

会衆の息・歌声と一つになる喜びを感じつつ賛美歌を伴奏するために、意識・工夫・準備・練習と、奏楽者には時に多くの努めが必要となります。神さまに賛美をささげるために大きな役割を与えられた私たち、喜びを持って取り組み、これからも共に歩んでゆきましょう。

◆販売中の曲目はこちらで確認できます → <https://bp-uccj.jp/news/n58908.html>

(日本キリスト教団出版局サイトより)

*「アーメン」について

『讃美歌 21』本体の楽譜末尾に「アーメン」が追記されているものは、同様に付記していますが、便宜的なものですので、必要に応じて使用してください(詳しくは、『讃美歌 21』のまえがき xii ご参照)。また和音は、弾きやすくするため又は曲終わりの音との関係から、『讃美歌 21』本体の構成と違う場合もあります。